

50 周年特別寄稿 長野県産スゲ属植物の追加

勝山 輝男 *

Additional species of *Carex* L. (Cyperaceae) to 'Flora of Nagano Prefecture' and its suppliments

Teruo Katsuyama

『長野県植物誌』（長野県植物誌編纂委員会編，1997）にはスゲ属植物は 120 種 9 変種が掲載された。種や変種の扱いは著者により異なり、勝山（2015）では日本産スゲ属植物を 269 種とし、『長野県植物誌』の 9 変種のうち 5 変種は種ランクで扱った。種の扱いを勝山（2015）にあわせると、『長野県植物誌』では長野県産のスゲ属植物として 125 種が取り上げられたことになる。当時は保育社の『原色日本植物図鑑』（北村ほか，1964）、『日本植物誌』（大井，1972）、吉川（1957-1960）などの影響で、アオスゲ類やグレースゲ *C. parciflora* Boott など種を大きく扱っていた。

『長野県植物誌』刊行後に長野県植物誌補遺（清水編，1998-2012）には補遺 2（1999）にノゲヌカスゲ *Carex mitrata* Franch. et Sav. var. *aristata* Ohwi、補遺 3（2000）にセンダイスゲ *C. sendaica* Franch.、アカンスゲ *C. loliacea* L.、サップロスゲ *C. pilosa* Scop.、補遺 6（2003）にキタノカワズスゲ *C. echinata* Murray、ホシナシゴウソ *C. maximowiczii* Miq. var. *levisaccus* Ohwi、イトアオスゲ *C. puberula* Boott、メアオスゲ *C. candlleana* H.Lév. et Vaniot、ミヤマアオスゲ *C. sachalinensis* F.Schmidt var. *longiuscula* Ohwi、カミカワスゲ *C. sabynensis* Less. ex Kunth var. *sabynensis*、補遺 7（2004）にオオアオスゲ *C. lonchophora* Ohwi とコミヤマカンスゲ *C. multifolia* Ohwi var. *toriiana* T.Koyama、補遺 8（2005）にヒロハノオオタマツリスゲ *C. arakiana* (Ohwi) Ohwi、ニイタカスゲ *C. aphanandra* Franch. et Sav.、ナガミヒメスゲ *C. oxandra* (Franch. et Sav.) Kudo var. *lanceata* (Kük.) Ohwi の 15 種（変種）が報告された。この他、横井（2011）は下伊那郡大鹿村からイセアオスゲ *C. karashidaniensis* Akiyama を報告した。種に限るとホシナシゴウソ、ミヤマアオスゲ、カミカワスゲ、コミヤマカンスゲ、ナガミ

ヒメスゲの 5 変種を除き、11 種が長野県のスゲ属植物相に追加された。

2005 年に文一総合出版の『日本のスゲ』（勝山，2005）が刊行され、2011 年には平凡社から『日本カヤツリグサ科植物図譜』（星野ほか，2011）が出版され、2015 年には『日本のスゲ 増補改訂』（勝山，2015）が出された。それらの中には長野県に産するが、『長野県植物誌』で取り上げられず、その後の補遺でも報告されていないスゲ属植物が 6 種 2 変種ある。これらの未報告の追加種（変種）について報告しておきたい。

最近の分子系統解析の成果から、ヒゲハリスゲ属 *Kobresia* がスゲ属に合一され、ヒゲハリスゲが *C. myosuroides* Vill. となった（Global Carex Group, 2015）。長野県産スゲ属植物は、『長野県植物誌』の 125 種に、補遺などで追加した 11 種、今回の報告の 6 種、ヒゲハリスゲ 1 種の 18 種が加わり計 143 種となった。スゲ属植物の種数は北海道が多そうであるが、勝山（2015）の国内分布を数えると、北海道には 133 種が分布している。長野県は日本で最もスゲ属植物の種数が多い県である。

1. ユキグニハリスゲ *Carex semihyalofructa* Tak. Shimizu in Acta Phytotax. Geobot. 56: 33, f. 1, f. 2: 1-8 (2005).

葉が 2-3mm とやや幅広く、花序の直下の茎が鋭 3 稜形で強くざらつくので、ニッコウハリスゲ *C. fulta* Franch. によく似ているが、根茎が伸長し、株が緩く叢生すること、果胞は熟しても斜上し、あまり強くは反り返らず、果胞がほとんど無脈である点で区別される。本州の北陸以北の日本海側多雪地に分布し、湿地や流水縁などに生える。原記載（Shimizu, 2005）には長野県産の標本として柴村（苗場山）、飯山市（野々海）、小谷村（桐池）、白馬村（鍾温泉～猿倉）の標本が引用されている。勝山（2005）には桐池で撮影した写真を掲載したが、あ

* 神奈川県立生命の星・地球博物館

〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

まり良い写真ではなかったもので、増補改訂（勝山、2015）にあたって山形県月山で撮影した写真に差し替えた。

2. ナガエスゲ *Carex otayae* Ohwi in Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. ser. B, 6: 265 (1931).

タテヤマスゲ *C. aphyllopus* Kuk. と混同されていたが、密に叢生し、雌花穂は長い柄があって垂れ下がり、雌鱗片の芒が長いことで区別される。秋田県～福井県までの日本海側多雪地に分布し、ブナ帯～シラビソ帯の斜面湿草地、特にナダレ斜面に多く見られる。『長野県版レッドデータブック』（長野県自然保護研究所編、2002）に絶滅危惧Ⅱ類として掲載され、白馬村の分布が記されている。勝山（2005, 2015）には白馬岳（小日向のコル）で撮影した写真が掲載されている。神奈川県立生命の星・地球博物館の標本庫（KPM）には以下の標本がある。北アルプス、頸城山地、苗場山周辺など県北部の多雪山地に広く分布すると推定される。標本：上高地岳沢、1963.7.20, 大場達之 22404 (KPM-NA0013420); 同, 大場達之 22390 (KPM-NA0013421); 同, 大場達之 22385 (KPM-NA0013422); 白馬鎚ヶ岳中腹、1968.7.23, 高橋秀男 s.n. (KPM-NA0013424).

3. ウスイロオクノカンスゲ *Carex foliosissima* F.Schmidt var. *pallidivaginata* J.Oda et Nagam. in Acta Phytotax. Geobot., 54: 21 (2003).

オクノカンスゲの基部の鞘は黒紫色でよく目立つが、本変種の基部の鞘は淡緑色～淡褐色な点で区別される。北海道（渡島半島）～富山県にかけての日本海側の多雪地に分布する。オクノカンスゲと分布が重なる地域では、より標高の高い所に分布する。原記載論文（Oda & Nagamasu, 2003）には長野県産の標本として、京都大学所蔵の木曽郡開田村と北佐久郡立科村の標本が引用されている。杣池高原から天狗原に登る途中で確認し、その時に撮影した写真を勝山（2005, 2015）で使用した。信州大学のオクノカンスゲ標本にも本変種が多数含まれているものと思われる。

4. スルガスゲ *Carex omurae* T.Koyama in J. Jpn. Bot. 30: 313 (1955).

植物体はヒメカンスゲによく似ているが、匍枝は出さず、果胞は無毛で、先は急に狭くなって顕著な短嘴となり、口部は2小歯となる点が異なる。葉は有花茎に比べて著しく低く、葉の下半部は逆向

き（下から上に）にざらつき、雄花穂は濃紫褐色、苞の葉身は刺状で雌花穂は柄が長い。静岡県・山梨県・長野県に分布し、花崗岩の溪谷側壁に生えることが多い。長野県産の下記標本がある。小黒川は桂木場から谷沿いに信大演習林道を登り、最初に右岸をへつる側壁に生育していた。空木岳池山尾根ではマセナギの上部 2080 m 峰周辺の岩混じりの急斜面に点在していた。茶臼山は根羽村側と推定されるが、探索したが見出すことができなかった。長野県では中央アルプス～茶臼山に至る山脈の伊那側に広く分布するものと推定され、新たな産地が発見されるものと期待される。標本：伊那市小黒川桂木場 1100m, 2012.8.22 (2013.4.28 出穂したものを標本化), 勝山輝男 s.n. (KPM-NA0202819); 駒ヶ根市空木岳池山尾根, 1989.8.29, 路川宗夫 25106 (KPM-NA0149091, OKAY); 池山尾根 2080m 峰付近, 2011.7.26, 勝山輝男・大西 亘 s.n. (KPM-NA0200281, OKAY-23354); 長野・愛知県境茶臼山, 2006.5.14, 佐々木シゲ子ほか s.n. (KPM-NA0158866).

5. ミセンアオスゲ *Carex horikawae* K.Okamoto in Bull. Okayama Coll. Sci. (1): 56 (1965); *C. leucochlora* Bunge var. *horikawae* (K.Okamoto) Katsuy. in Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.), (22): 59 (1993).

イトアオスゲに似るが、株は密に叢生し、雌花穂は離れて着き、苞の葉身は刺状で短い。果胞の性質はイトアオスゲと変わらず、雌花穂が接近してくるとイトアオスゲとの区別が困難となる。勝山（2005, 2015）では独立種とされたが、イトアオスゲ、メアオスゲ、ニイタカスゲなどとともにアオスゲ *C. leucochlora* Bunge の変種扱いの方が良いかもしれない。瀬戸内海沿岸を中心に本州中部以西、四国、九州に分布し、シイ・カシ帯～ブナ帯の林縁や乾いた明るい樹林内に生育する。『長野県版レッドデータブック』では情報不足（DD）として扱われ、『長野県版レッドリスト（植物編）2014』では絶滅危惧Ⅱ類とされた。生命の星。地球博物館の標本庫（KPM）には下記標本があるが、もう少し広く分布していると推定される。標本：南佐久郡北牧村 松原湖畔, 1959.5.22, M.Furuse s.n. (KPM-NA0054581); 東筑摩郡里山辺村 本郷村 袴腰山麓, 1955.5.14, M.Furuse s.n. (KPM-NA0015221).

6. ナガミシヨウジョウスゲ *Carex blepharicarpa*

Franch. var. *stenocarpa* Ohwi in Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. ser. B, 5: 269 (1930).

果胞の嘴が長く、口部が鋭2歯となる点でツクバスゲ *C. hirtifructus* Kük. に似るが、株は密に叢生し、匍枝を出すことはなく、鱗片は明るい褐色である。本州中部の高山乾性草地に生育する。基準産地は八ヶ岳の横岳。ツクバスゲと同一のものとされ、ツクバスゲをショウジョウスゲ *C. blepharicarpa* の変種として扱う場合に変種名として var. *stenocarpa* が用いられたことがあるが、ツクバスゲとは区別した方がよいと考える。生命の星。地球博物館の標本庫 (KPM) には下記標本がある。標本：茅野市豊平 八ヶ岳横岳大権現, 2010.7.28, 勝山輝男・星野卓二 s.n. (KPM-NA0144598); 上伊那郡飯島町空木岳, 2011.7.25, 勝山輝男・大西 亘 s.n. (KPM-NA0200275); 信濃赤石山系塩見岳, 1953.7.30, 大場達之 s.n. (KPM-NA0012937).

7. ザラツキシラスゲ (チチブシラスゲ) *Carex albidibasis* T.Koyama in J. Jpn. Bot. 30: 136 (1955); *C. planiculmis* Kom. var. *urasawae* Ohwi, Fl. Jap. rev. ed.: 1438 (1972).

ザラツキシラスゲ *C. albidibasis* は木曾駒ヶ岳の標本に基づき、ヒカゲシラスゲに比べて全体に硬く、葉は幅が狭くて裏面が白色を帯び、茎は基部から上部まで連続してザラつき、果胞にやや光沢があるとされた (Koyama, 1955)。チチブシラスゲ *C. planiculmis* var. *urasawae* は埼玉県秩父十文字峠で採集された標本 (July 29 1963, ト沢美久, TNS-181135) に基づき、葉が幅狭く、裏面がやや白色を帯びることを特徴とし、ヒカゲシラスゲ *C. planiculmis* の変種として記載された (大井, 1972)。チチブシラスゲとザラツキシラスゲの Type 標本を比較したところ、両者ともに全体に硬く、茎や葉は基部から先の方まで、ガラス質の細かい棘状突起があって著しくざらつき、葉が幅 2~4mm と幅狭く、裏面に微細な乳頭状突起が密生して粉白を帯び、雌花穂は細くて先がやや垂れ、果胞の性質もほとんど変わらないことから、両者は同じものと結論し、勝山 (2015) ではザラツキシラスゲ *C. albidibasis* として取り上げ、八ヶ岳美濃戸で撮影した写真を掲載した。ザラツキシラスゲ (チチブシラスゲ) は栃木県の日光や塩原、秩父山地、八ヶ岳、南アルプス、中央アルプスに分布している。果胞の性質がヒカゲシラスゲに近いこと、ブナ帯~シラビソ帯に生育することから、ヒカゲシラスゲに近いものと考えら

る。岩の多い斜面や崖錐地などに生え、石灰岩地を好むと考えられる。長野県産のものは以下の標本を確認した。標本：信濃梓山~十文字峠, 1955.6.25, T.Ohba 12455 (KPM-NA0012795); 茅野市八ヶ岳赤岳鉱泉, 1928.7.5, J.Ohwi s.n. (TNS-221550); 同 八ヶ岳北沢湯ノ上, 1923.8.31, H.Koidzumi s.n. (TNS-535904); 八ヶ岳美濃戸 1750m, 2010.7.26, 勝山輝男・星野卓二 s.n. (KPM-NA0144594); 伊那市長谷黒河内 横岳 5 合目, 1923.7.30, H. Koidzumi s.n. (TNS-535902); 木曾駒ヶ岳, 1924.8.3, H. Koidzumi s.n. (TNS-106739), Holo-type of *C. albidibasis* T.Koyama.

8. スナジスゲ *Carex glabrescens* (Kük.) Ohwi in Mem. Coll. Sci. Kyoto Univ. ser. B, 6: 245 (1931); *C. wallichiana* Presc. var. *miyabei* (Franch.) Kük. form. *glabrescens* Kük. in Engler, Pfl.-reich 38 (IV-20): 749 (1909).

全体にビロードスゲ *C. miyabei* Franch. に似るが、果胞はやや大きく (長さ 5-6 mm)、先は緩やかに狭くなって長い嘴になる。果胞は有毛であるが、ビロードスゲのように密ではない。雄花穂は抽出するが、ビロードスゲに比べて雌花穂は互いに接近する傾向がある。北海道、本州中部以北に分布し、河川の高水敷に生えることが多い。『長野県版レッドリスト (植物編) 2014』では絶滅危惧 I B 類とされ、産地が 5 地点と付記されている。生命の星。地球博物館の標本庫 (KPM) には下記標本がある。標本：南佐久郡川上村前川畔, 1992.6.7, 江塚昭典 5698 (KPM-NA0093614); 白馬村深空平川沿い, 1992.7.29, 高橋秀男 s.n. KPM-NA0097057).

文 献

- Grobal Carex Group. 2015. Making *Carex* monophyletic (Cyperaceae tribe Cariceae): a new broader circumscription. *Botanical journal of Linnean Society*, 179: 1-42.
- 星野卓二・正木智美・西野眞理子 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.
- 勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ. 375pp. 文一総合出版, 東京.
- 勝山輝男, 2015. ネイチャーガイド 日本のスゲ 増補改訂. 391pp. 文一総合出版, 東京.
- 北村四郎・村田源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ. 464pp. 108pls. 保育社, 大阪.
- Koyama, T., 1955. Les diagnoses des Cypéracées

- nouvelles pour la flore de Japon. *Journal of Japanese Botany* 30: 129-137.
- 長野県自然保護研究所編, 2002. 長野県版レッドデータブック. 297pp. 長野県自然保護研究所, 長野.
- 長野県植物誌編纂委員会編, 1997. 長野県植物誌. 1735pp. 信濃毎日新聞社, 長野.
- Oda, J. & H. Nagamasu, 2003. *Carex foliosissima* var. *pallidivaginata* (Cyperaceae), a new variety from Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 54: 19-30.
- 大井次三郎, 1972. 改訂新版 日本植物誌. 6+1560pp. pl.56. 至文堂, 東京.
- Shimizu, T., 2005. *Carex semihyalofructa*, a New Species of *Carex* Sect. *Rarae* (*Capitellatae*) from Japan. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 56: 33-39.
- 清水建美編, 1998-2012. 長野県植物誌補遺 1-15. 長野県植物研究会誌 (31)-(45)
- 横井 力, 2011. 長野県新産のイセアオスゲ (カヤツリグサ科) の分布および生態に関する記録. 莎草研究 (16): 69-72.
- 吉川純幹, 1957, 1958, 1960. 日本産スゲ属植物図譜 1 ~ 3. 421pp. 北陸植物の会, 金沢.